

第4節 近世の長崎県

MEMO



1 禁教と島原・天草一揆（島原の乱）



原城跡 天草四郎銅像

（提供：長崎県観光連盟）

豊臣秀吉の死後、徳川家康が関ヶ原の戦いに勝利し、1603（慶長8）年に征夷大將軍になり、江戸に幕府を開いた。

幕府は、1612（慶長17）年からキリスト教への弾圧を強化した。2年後の1614（慶長19）年、キリシタンの多い島原半島では厳しい弾圧をおこなった。

キリシタンに対し

て、仏教に改宗するよう強くせまり、これに応じない者は、手足の指を切り落としたり海や雲仙の地獄に落としたりするなど、さんこくなはくがい迫害をした。

1616（元和2）年、島原半島の領主となった松倉氏は、島原城の築城と幕府への軍役負担のため農民に重税を課したうえに、厳しいキリシタン弾圧をおこなった。たまりかねた農民たちは、1637（寛永14）年、一揆を起こした。これに応じて天草（熊本県）の農民たちも一揆を起こし、間もなく島原の農民たちと合流した。この一揆軍は、天草（益田）四郎時貞を総大将として3万7千人にのぼり、12月に入って原城（南島原市南有馬町）にたてこもった。翌年2月末、12万人もの幕府軍によって全滅させられた。これが島原・天草一揆（島原の乱）である。

キリスト教徒の団結力をおそれた幕府は、キリシタンの弾圧をいっそう強めるとともに、1635（寛永12）年に日本人の海外渡航を禁止し、1639（寛永16）年にはポルトガル人の来航を禁止した。こうして後に鎖国とよばれる外交政策が確立された。

みんなで考えてみよう！

なぜキリスト教が禁止されたのだろう？

MEMO

一揆の舞台となった原城は1496（明応^{めいおう}5）年、東肥前^{ひがしひ ぜん}までも勢力を延ばし当時26万石ともいわれた領主・有馬貴純^{あり ま たかすみ}によって築かれたといわれている。周囲4kmの三方を有明海に囲まれ難攻不落^{なんこう ふらく}の天然^{ようさい}の要塞で、本丸・二ノ丸・三の丸・天草丸からなり、別名「日暮城」^{ひ ぐらしじょう}ともよばれた城であった。

その後、1616（元和^{げん な}2）年、大和五条（奈良県）より松倉重政^{まつくらしげまさ}が入り、一国一城の令によって島原城を築城したので、一揆が起きた時原城は廃城^{はいじょう}となっていた。

1938（昭和13）年5月30日、国の史跡に指定され、これまでの発掘調査で出土した貴重な遺物が有馬キリシタン遺産記念館に展示されている。



原城跡

(提供:長崎県観光連盟)

MEMO



2 西洋文化の窓口

鎖国下の日本では、ヨーロッパの先進文化を受け入れるただ一つの窓口が長崎の出島となった。ヨーロッパの進んだ文化を学びたいと思う人々にとって、長崎はあこがれの地であった。

その長崎で西洋文化をわが国に伝えた代表的な人物に、シーボルトがいる。

(1) シーボルトの業績

シーボルトは、1823（文政6）年、未知の国日本を研究するため長崎に来たドイツ人である。

シーボルトは、出島のオランダ商館の医者であった。やがて彼の医者としてのすばらしい技量が知られ、医学を志す者が全国から集まってくるようになった。

幕府から日本人を診療することを許されたシーボルトは、長崎の鳴滝塾で病人の治療にあたり、弟子たちに内科、外科、眼科などの医学を教えた。この塾からは高野長英や二宮敬作などの蘭学者が巣立ち、近代的な思想や学問が日本各地へ伝わっていった。

(2) シーボルト事件

1828（文政11）年に帰国する予定だったシーボルトの荷物の中から、国外に持ち出すことが禁止されていた日本地図などが見つかった。幕府は、シーボルトの弟子や関係者たちをとらえると同時に、シーボルトを監禁して取り調べをおこなった。その結果、シーボルト



シーボルト宅跡

（提供：長崎県観光連盟）

MEMO

みんなで考えてみよう!

どうして国外へ日本地図を持ち出してはいけなかったのだろうか?

ヒント:鎖国と関係があります。

トは国外追放の処分となり、翌年妻^{むすめ}たきと娘いねを残して日本を去った。関係者へも厳しい処罰^{しよばつ}がおこなわれた。これをシーボルト事件という。

帰国したシーボルトは、日本研究の成果を『日本』という本にまとめ、ヨーロッパにあまり知られていなかった日本をくわしく紹介した。また、シーボルトはアメリカのペリーへ手紙を送って、日本を武力で開国させないように要請^{ようせい}している。このように帰国後も日本のことを思いつづけていたシーボルトは、開国後の1859(安政6)年に再び来日し、妻や娘と再会した。



しゃけつ 瀉血手術図 (長崎歴史文化博物館収蔵)

(3) オランダ通詞

日本人の中で、オランダ人と接する機会が多かったのは、通訳の仕事をするオランダ通詞^{つうじ}である。彼らは、オランダ語のほかに医学をはじめとするいろいろな西洋の学問を学ぶことができた。

オランダ大通詞^{おおつうじ}の一人である吉雄耕牛^{よし おこうぎゅう}は、オランダ商館の医師から医学を深く学び、吉雄流医学を開いた。吉雄は科学者でもあり、またわが国を代表する蘭学者^{らんがくしゃ}として有名であった。名声^{めいせい}を聞きつけ、吉雄のもとには各地から若者たちが集まってきた。後に『解体新書^{かいたいしんしょ}』を著した前野良沢^{あらわ まえの りょうたく}や杉田玄白^{すぎ た げんぱく}も吉雄から医学を学んでいる。



らんじん げ か 蘭人外科療治図 (長崎歴史文化博物館収蔵)

MEMO

長崎で学んだ主な人々

人 物 名	出 身	主 な 事 項
緒方 洪庵	岡 山	大坂で適々斎塾（適塾）を開く
大槻 玄沢	岩 手	「蘭学階梯」を著す
高野 長英	岩 手	鳴滝塾で医学を学ぶ
稲村 三伯	鳥 取	蘭日辞書「ハルマ和解」を完成
松本 良順	千 葉	初代陸軍軍医総監
林 子平	宮 城	「海国兵談」を著す
安藤 昌益	秋 田	「自然真営道」を著す
西 周	島 根	明六社を設立
間宮 林蔵	茨 城	間宮海峡を発見
福沢 諭吉	大 分	「学問のすすめ」を著す
中江 兆民	高 知	民権論を主張
司馬 江漢	東 京	洋画家、洋学者
貝原 益軒	福 岡	「養生訓」を著す
平賀 源内	香 川	電気学の先駆者
勝 海舟	東 京	幕府官僚
榎本 武揚	東 京	幕府海軍副総裁
大村益次郎	山 口	日本の近代兵制を築く
工藤 平助	和歌山	「赤蝦夷風説考」を著す
五代 友厚	鹿児島	実業界で活躍
岩崎弥太郎	高 知	三菱の創始者
吉田 松陰	山 口	松下村塾を開く
大隈 重信	佐 賀	総理大臣
坂本 龍馬	高 知	亀山社中、海援隊を組織
伊藤 博文	山 口	初代総理大臣
陸奥 宗光	和歌山	外務大臣
松方 正義	鹿児島	総理大臣
井上 馨	山 口	外務大臣
西園寺公望	京 都	総理大臣